

第6学年国語科学習指導案

日時 平成24年11月1日(木) 5校時

児童 6年2組 男20名 女20名 計40名

指導者 五日市 敦美

研究課題

物語を読む楽しさを感じ、自発的に読もうとする子どもを育てる授業

研究課題について(設定理由)

本学級の子どもは本を読むことが好きで、休み時間や読書タイムに意欲的に読書に取り組んでいる。しかし、その一方で読む本の種類に偏りがある子も少なくない。このことの原因として、子どもたちの読む能力に個人差があることや、長い文章を読むことへの抵抗感、物語を読む楽しさを十分に理解できていないことなどが考えられる。

読書は、子どもたちの読む能力を育てていく上でとても重要な役割を担っていると考える。そこで、自分の経験と重ねて読んだり、日常生活ではなかなか体験できない暮らしや出来事に出会ったりして物語を読むことの楽しさを感じ、自発的に読もうとする子どもを育てたいと考え、本研究課題を設定した。

1 単元名 物語を読んで、考えを深めよう

教材名 「海の命」(光村図書 6年下)

2 単元について

(1) 児童観

これまでに子どもたちは、5年生「読むこと」の文学的な文章の学習として、「のどがかわいた」では、登場人物の人物像や相互関係に気を付けて読む学習を行った。また、6年生の「カレーライス」では、中心人物の心の揺れ動きに寄り添いながら、人物相互の関係や心情を読み取る学習を行った。これらの学習を通して、人物の性格・行動・人間関係など、正確に読み取るべきことを確かめながら読んだり、登場人物の行動や心情の変化などについて自分の体験を基に想像したりすることができるようになってきている。

学び合いで考えを交流することについては、「感情/生き物はつながりの中に」で、文章と対話しながら読み、筆者の意図をとらえて自分の考えをもったり、文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする学習を行った。このことにより、友達と考えを交流することに進んで取り組む姿が見られるようになってきた。

読書については、意欲的に取り組んでいる子が多いが、目的に応じて選書する力については十分に身に付いているとはいえない。国語の授業では、登場人物の心情について想像したり、考えを交流したりすることに進んで取り組む姿が見られる反面、国語の学習に苦手意識をもち、意欲的に取り組むことが難しい児童も少なくない。そこで、授業では物語の「クライマックス場面」(「最も出来事が盛り上がる場所」)に着目して読んだり、少人数や全体での学び合いを通して、自分の読みと友達の読みとを比べるなど、個の読みを広げたりすることで、物語を読むことの楽しさを感じながら、児童一人ひとりの読む能力を高めていきたいと考える。

(2) 教材観

本単元で育てたい主となる能力は、学習指導要領第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の内容にある「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」及び「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」である。

本教材「海の命」は、主人公・太一の少年期から始まり、青年、壮年になるまでの生涯が6つの場面構成で描かれている。それぞれの場面において、太一の成長にかかわる登場人物の言葉や生き方が描かれ、その影響を受けながら、太一が海やそこに住まう魚や人間のあり方を深く見つめ、自分の生き方を決めていく話となっている。太一や太一を取り巻く人たちの生き方について考えながら読むことで、思春期にさしかかった子どもたちが、父との関係、尊敬できる人物との出会い、どう生きるべきかという葛藤など、さまざまな考えをもつことのできる作品であるといえる。また、本教材を学習することで、子どもたちは自分の日常生活ではなかなか体験できない暮らしや出来事、実生活では出会えないような人物に出会うことができ、このような経験は物語を読む楽しさを感じることに繋がると考える。

(3) 指導観

本単元では、物語を読んで、人物の生き方について自分の考えをもち、友達と交流するという言語活動を行う。

第一次では、【「海の命」を読み、登場人物の生き方や考え方について自分の考えをまとめ、友達と交流する】という単元のゴールや学習の進め方などについて確認し、学習の見通しをもつとともに児童の学習意欲を高めることができるようにする。ここで作者・立松和平の「いのちシリーズ」を紹介し、並行読書に取り組むことで、同一作者の作品を比べて読み、共通する特色やテーマをとらえることができるようにする。また、全文を通読して初発の感想をもち、物語のあらすじやクライマックス場面をとらえ、第二次への学習へとつなげていく。

第二次では、登場人物の生き方と太一の心情の変化や成長を視点として物語を読み進める。太一の成長にかかわった人物の人物像や言葉、生き方を読み取り、それらから影響を受けて太一が成長していく様子をとらえていく。また、毎時間の終末には、その時間に読み取った人物の生き方や太一の成長について自分の考えをまとめ、第三次につなげていく。

第三次では、登場人物の生き方や考え方について自分の考えを書いたり、友達と考えを交流したりする。友達の考えを知ること、同じ作品を読んでも人によって感じ方・考え方に違いがあることなどを知り、自分の考えを深めることができるようにする。また、まとめの感想を書き、初発の感想と比較することで、自分が受け取った作品の心（主題）を感じ取ることができるようにする。

3 学習指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 物語を読み、人物の生き方について考えようとする。

(2) 読む能力

- ◎ 登場人物の人物像や心情、相互関係を読み取り、読み取った人物の生き方などについて自分の考えをまとめることができる。 (読 エ)
- ◎ 人物の生き方や考え方について考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (読 オ)

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。 (言イ【キ】)

4 指導計画

(「読むこと」8時間)

次	時	学習内容
一	1	・単元のねらいを知り、学習の見通しをもつこと。 ・全文を通読し、初発の感想を書くこと。
	2	・物語のあらすじやクライマックス場面をとらえ、太一の心の変化と登場人物の関係をつかむこと。
二	3	・父の生き方や、太一の父に対する思いをとらえること。
	4	・与吉じいさの生き方を読み取るとともに、その影響を受けた太一の成長をとらえること。
	5	・母の太一への思いや、母と太一の海に対する思いをとらえること。
	6(本時)	・太一の考えを変えた出来事と、その心の変化をとらえること。
三	7	・登場人物の生き方・考え方について、自分の考えをもつこと。 ・まとめの感想を書くこと。
	8	・友達と考えを交流し合い、自分の考えを深めたり、友達の考えに対する感想をもつたりすること。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 太一の心の変化を読み取り，それに対する自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 ◇評価
導入 7分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">なぜ、太一はクエをとらなかったのだろう。</div> 3 課題解決の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時は，母の太一への思いや，母と太一の海に対する思いをとらえたことを確認する。 ・ 本時の課題を設定するにあたり，これまでのクエと太一の関係と，村一番の漁師になるために太一はクエを捕りたいと思っていたことを確認する。 ・ 太一の会話・行動や，クエの様子，太一の成長に影響を与えた人物の生き方をノートに書き抜き，そこからなぜ太一がクエを捕らなかったのか考えていくことを確認する。
展開 35分	4 学習課題を解決する。 (1) 太一がクエを捕らなかった理由を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一人学び</div> ・ 叙述を基に太一がクエをとらなかった理由を想像して書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;">全体での交流</div> (2) 太一の心の変化や成長について自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「この魚をとらなければ，本当の一人前の漁師にはなれないのだと，太一は泣きそうになりながら思う。」から，父が捕ることができなかったクエを捕り，自分の夢を叶えたいという思いと，無抵抗なクエを殺すことができない（むやみに命を奪ってはいけない）という思いの間で太一が葛藤していることをとらえることができるようにする。 ・ 「おとう，ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」「こう思うことによって，太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。」から，太一はクエを父だと思ふことによって，父を超えるためにクエを捕りたいという思いを抑えたことをとらえることができるようにする。 ・ 「海のめぐみだからなあ。」「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば，ずっとこの海で生きていけるよ。」に表れている，生きるために必要なだけの魚の命をもらう（命を無駄にしない）という父や与吉じいさの教えを，太一が真に理解したことをとらえることができるようにする。 ◇太一の心の変化を読み取り，それに対する自分の考えをもつことができたか。（ノート・発表）
終末 3分	6 学習の振り返りをする。 7 次時の学習についての見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習で身に付いた力について振り返らせる。 ・ 次時の学習では，登場人物の生き方・考え方について自分の考えをもち，「海の命」のまとめの感想を書くことを確認する。